
遠い恋人

中山さくら

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遠い恋人

【Nコード】

N5713E

【作者名】

中山さくら

【あらすじ】

新一のことを楽しそうに話す蘭を見て、最近、真と連絡が取れない園子は焦りを感じていた…。

（前書き）

自分でも恥ずかしいほど『あまい』展開です。了承した上で読んでください。

いつもの学校の帰り道。

「新一ね、久しぶりに電話してきたと思ったら、昨日発売された推理小説の話ばかりよ。ヤバイ事件抱えてるって言ってたのに、のんきなものよね！さっさと事件解いて、帰って来なさいよ！」

口ではそう言いながらも、蘭の表情は喜びで満ち溢れている。

（蘭は強いね…）

園子は、蘭の話を隣で聞きながら思った。

真からはもう2ヶ月間連絡が無い。こっちからかけてもつながらない。園子は真との恋愛に不安を感じ始めていた。

「ちょっと園子？」

「え？ゴメン！聞いてなかった。」

蘭はしょうがないなというように肩をすくめた。

「もう、園子ったら…また京極さんのことでも考えてたんでしょ？」

「…うん…あのね、蘭…。」

園子は、自分が不安に思っていることを親友である蘭に話した。

「そっか…。でも、心配すること無いと思うよ。きっと忙しいのよ。」

「…だといんだけど…」

「大丈夫よ。京極さんは浮気なんかする人じゃないわ。それは園子も分かってるでしょ？」

「…うん…。」

園子はまだうかない顔をしている。

蘭はそんな園子の背中を軽く叩いた。

「もう！そんな顔しないの！京極さんは園子の笑った顔が好きなんだから。しっかりしなさいよ。」

「…うん、そうだね。こんなことで悩んでたら、また真さんに怒られちゃうね。」

園子は、前方にあるクレープ屋を指差した。

「あっ蘭！あそこのクレープ、すごーい美味しいんだよ。おごってあげるから食べてこー！」

そう言つと園子は走り出した。

そのあとを追う蘭。

「待ってよ園子よー」

(蘭…ありがとう…)

ピリリリ… ピリリリ…

「え？」

クレープを注文したとき、園子の携帯が鳴り出した。

「姉貴かな…。」

すこしクレープ屋から離れ、携帯の画面を見る。しかし、画面に映っていた文字は…。

「まつ、真さん!？」

「え!うそ!」

二人分のクレープを持って近づいてきた蘭も画面を覗きこむ。

「あつ ホントだ！早く出なよ園子！」

「あつ、うん！」

ピッ！

「もしもし…。」

『あつ 園子さん？』

「…真さん…。」

『すみません、最近連絡できなくて。なかなか時間ができなかったので…。』

「……………」

園子から返事が無い。

『園子さん？』

「…バカ！心配したんだから！何でもっと早く連絡してくれなかったの！何度も電話したのよ！」

『…すみません…。』

「よかった…。」

『…え？』

「真さん、いつも怪我ばかりしてるし…何かあったんじゃないかって…無事でよかった…」

『園子さん…。』

（園子…）

蘭は、園子が発する言葉だけで電話の内容を読み取っていた。

園子の様子を少し前の自分と重ね合わせる。

（あ那时的自分もそうだった…）

新一がいなくなったばかりのとき、自分も新一に会いたくて仕方なかった。淋しさで、コナン＝新一だと何度も疑った。

（がんばれ…園子…）

『何度も電話しようと思ったんですが用も無いのに掛けたら失礼かと思って…。』

「そんなこと無いわよ！私は大した用がなくなつたつて…。」

そこまで言つてようやく気がついた。

「あれ？真さん、何か私に用があつたの？」

『ええ…実は…。』

『今、日本にいます。』

「え！！」

『ですから、貴女の家に向かつていたんですが…もうその必要は無いみたいです。』

「え？」

『こんな偶然つてあるんですね…。』

園子には真の言いたいことが分からなかった。

「そつ園子…後ろ…。」

蘭がとても驚いた顔をして園子に言った。

「後ろ…！？」

そこには――

「真さん…！」

「どうして…京極さんがここに？」

真の言葉を聞いていない蘭には何が何だか分らない。

「ついさっき、帰って来たんです。時間ができたので…。」

「真さん…。」

園子は、あふれてくる涙をぬぐおうともせずに真に抱きついた。

「真さん…会いたかった…。」

「園子さん…。」

「お帰り…真さん…。」

（後書き）

はじめまして！さくらです。初めて投稿しました。感想など、頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5713e/>

遠い恋人

2010年10月8日23時44分発行